

複数の写真重ねる技巧凝らした作品

「心象創作写真」の魅力

茅野市北山の白樺湖畔に暮らす写真家の久野鎮さん(80)が、複数の写真の一つに重ねる多重露光などの技巧を凝らした作品を「心象創作写真」と独自に名付け、普及に取り組んでいる。身近



雪の中でも時間をかけて被写体に向き合う久野さん



別の場所に生えるハスの写真3枚を1枚にまとめた作品



2枚の写真を重ねて地面の落ち葉が舞っているように表現した作品

偶然写った「幻想的な雰囲気」転機

個性の表現方法 広げたい

な風景や花を被写体にした作品について「同じ風景でも、撮り方次第でその人の思いがこもる」と魅力を語る。撮影の傍ら、東京で写真教室の講師を務めるなど多忙な日々を送っている。

茅野の久野さん 普及に力

林一面に落ち葉が舞うような作品は、地面の落ち葉の写真と、背景の林の写真を重ねて仕上げた。遠近感の異なるハスの花や葉が1枚に収まった写真は、同じ池で生えている場所が異なる複数のハスを撮って重ねた。

こうした写真はデジタルカメラの多重露光などの機能を生かして制作。「自然に囲まれたときの感覚を大切にしたい」とし、撮影した現場でカメラのモニターを見ながら作品を完成させる。椅子に座って何時間も被写体に向き合っていると、観光客に「何をしているのか」と不思議がられることもあるという。

名古屋出身。楽器メーカーに勤務していた40年ほど前に趣味で写真を始め、近くの街の風景や祭りを撮り歩いた。別の楽器メーカーに勤めていた2005、08年に中国へ赴任し、現地の人の暮らしを生き生きと捉えた作品を写真集にした経験もある。

知人の紹介で、自然豊かな茅野市に09年に移住した。霧ヶ峰の風景やニッコウキスゲなどを撮ったが、「教科書通りの撮影技法はみんなと同じで行き詰まりを感じた」と振り返る。

14年、長和町の深谷での撮影で転機は訪れた。カメラの重さで三脚の首の部分が下がったことで偶然、木々が揺らめくように写って「幻想的な雰囲気」になった。この経験から撮影中にわざとズームを動かすなどさまざまな技法を試すように。多重露光の機能を駆使する技法も磨いた。

作品がカメラメーカーの担当者目に留まり、東京の写真教室の講師を務めるようになった。もつと技法を広めようと、20年6月に「心象創作写真協会」を設立。東京で会員数十人を前に月2回ほど撮影のアドバイスをしている。

「何回も撮り直すので時間はすぐに過ぎる」としつつ、今も月に約20枚は作品を手がける。会員との活動についても「その人の思いが込められている写真を見るのが楽しみ」といい、今冬には会員の1人が茅野市で個展を開いた。「いずれ自分を越える人がいっぱい出てくる」。技巧を凝らして個性を表現する写真の普及を楽しみにする。